



「サッカーと私」(5) 考えよう、少年たちの未来を

原田 馥

加藤先生のご紹介で、垂水区神陵台小学校のサッカーの指導を始めてから3年近く経ちました。この間には、さまざまな体験を得ました。まず、健康増進に役立っていることです。仕事の関係で神戸に移った5年前は、いわゆる半病人で病院へ行くほどではないが、調子が悪く薬を手放せない状態でした。日曜の朝、むすこを神戸少年サッカースクールへ送っていくのが、正直なところ大変な苦痛でした。それまで10年以上も冬眠していたサッカー熱が徐々に息を吹き返し、ついにはPTAチームに入って試合に出してもらえ健康になってきたのです。

サッカーとの出会いは中学生のころでした。サッカーの盛んな埼玉県にあって、正式な部を作って活動している中学は限られていたように思います。高校に併設されていた私の中学にも部はなく、高校生の練習に参加していたのですが、ほとんどボール拾いばかりだったように記憶しています。

全盛時代の浦和高校では、けがのため途中で多少のブランクもありましたが、その後、東京商船大学に入りました。国立大学の例にもれず、運動部の予算はきびしく物質的にはきわめて苦しいクラブでしたが、1年生の時からレギュラーとして試合に出られたので、比較的快乐しいサッカー生活を送ることができました。

わたしたちがサッカーを始めたころに比べ、現代の子供たちは恵まれた環境にあると思います。たとえば、ボールについてみても、昔はボールの数が少なく、しかも高価であったため練習が終わると空気を抜いて大切に保管しておくわけですが、現在のボールと違って構造が不便にできており、翌日の練習の前の空気入れ作業が大変で、これが主として下級生の仕事でした。

ボールの数が少ないということは、練習方法も必然的に限定されますから、いきおい多人数が一個のボールに集まり、個人技の上達のチャンスはあまりありませんでした。また指導の面からみても、上級生が手とり足とり親切に教えてくれるわけではなく、見よう見まねでマスターしていくのですから効果的ではなかったようです。チームの戦術にしても、出版などの情報が豊富ではなく、割合単純なことをやっていたように思います。浦和高校は私のいた3年間に二度も優勝しましたから、かなりレベルは高かったはずですが、そのゲーム内容は個人技や戦術の面からみれば、おそらく現在の小学生のじょうずなチーム

と同じ程度ではなかったかと推察するわけです。子供たちの指導にたずさわるようになってから得たもうひとつの大きな体験は、現代の社会環境とそこにおける子供の教育およびスポーツのあり方といった問題を、自分なりに考えるようになったことです。年寄りの繰り言と笑われるかもしれませんが、「このごろの若い者は……」と、いいたくなるようなことが、いろいろな方面で起こっているように思われます。子供たちが将来どのように進んでいくのか予測するすべもありませんが、少なくともあまりよい方向に進んでいるとは言えないようです。

テレビ等のマスコミによる画一的な文化環境のもとで、学歴社会の指定席を得るための受験教育で大きくなった子供たちは社会のいろいろなできごとや人間に対する見方が変わり、そして彼らが合理的な経済価値感によって標準化してしまうのは当然のなりゆきかもしれません。

今の子供たちは昔と比べて日常生活における全身運動はかなり少なく、あらゆるスポーツに入るための基礎体力が不足し、学校でもごくさいなことでけがをするのが多くなっていると感じています。

3年ほど前、社用で約2カ月スイスに滞在したことがあります。当時はまだ少年の指導を始める前だったので、子供たちの問題にそれほど関心を持っていたわけではないのですが、スイスの子供たちが伸び伸びとふるまっているのに強い印象を受けました。たとえば、子供の生活時間の幅広さをあげることができ、スイスの場合、テレビ放送は8時ごろで終わり、その内容も政府のお知らせなど子供たちには興味のないものが多く、テレビに縛られる時間がほとんどありません。したがってよく屋外で遊びますし、また遊ぶための空間が多いことはうやましいのですが公園のきれいな芝の上で2本の樹木をゴールに見立てて楽しそうにサッカーをやっているのを見かけました。子供たちのけじめははっきりしていて、しつけもかなりきびしいのですが、個性的価値感を大切にしますので、日本のようにだれも一流大学、有名企業をめざすという奇妙な現象は起こらないようです。もちろん、スイスをはじめヨーロッパ各国でもいろいろな問題があるわけですが、すべてがよいというわけではありませんが、少なくとも人間的にみて成熟した文化環境であると思いました。

わたしは大それた文化論を述べようとしているのではなく、日本の社会においては特殊でむしろ環境のため、スポーツの土壌そのものが物質的にも精神的にもまだ未熟だと言いたかったのです。サッカーについても例外ではなく、ごく一部の指導者の熱意によって地域活動が営まれており、本来、国家的レベルの行政力ややるべきことがないがしろになっている社会環境を残念に思うのです。

「サッカーと私」のテーマから少し脱線しましたが、サッカーを通じてこのような問題意識をもち、将来のビジョンを胸にひめて子供たちといっしょにこれからはボールをけり続けていくつもりです。はらだかおる。兵庫県協会少年委員会副委員長。日本協会公認リーダー。KFC Cサッカースクール指導者。ネッスル日本勤務。神戸市垂水区西舞子4丁目27-18ハウス大蔵山709。41歳。

兵庫県社会人中央大会

(9月28日現在)

ブロック(2)

順位	チーム	ライオン	武庫川	ホンダ	勝点	得点	失点	得失差
1	神戸ライオン		3-1	1-0	4	4	1	3
2	武庫川クラブ	1-3		3-2	2	4	5	-1
3	中央ホンダ	0-1	2-3		0	2	4	-2

ブロック(5)

川崎製鉄	10	①
三菱重工高砂	4	PK
ユニオン・ロ	1	川崎製鉄
A Y M	2	
三菱重工高砂	2	ユニオン・ロ
A Y M	3	
ユニオン・ロ	3	

ブロック(6)

神戸スポーツマン	9	①
三菱重工明石	2	神戸スポーツマン
武庫川同好会	2	兵庫教員団
兵庫教員団	0	
三菱重工明石	0	神戸スポーツマン
武庫川同好会	0	
神戸スポーツマン	0	

ブロック(7)

鐘化高砂	2	①
古河金属	3	神大同好会
西淡河辺	3	
神大同好会	5	
鐘化高砂	2	古河金属
西淡河辺	1	
古河金属	2	

ブロック(8)

グリーネルフ	6	①
香寺SC	0	グリーネルフ
竹谷クラブ	5	
神戸製鋼神戸	2	
香寺SC	2	神戸製鋼神戸
神戸製鋼神戸	6	
竹谷クラブ	1	

ブロック(1),(3),(4)の結果は11月号に掲載の予定

50年度神戸市スポーツ少年団リーグ戦結果

中学1年生 Aブロック

順位	チーム	高倉	附中	神戸C	勝点	得点	失点	得失差
1	高倉		1-0	4-2	6	11	2	9
2	附中	0-1		1-0	4	6	1	5
3	神戸C	2-4	0-1		2	8	6	-2
4	神影	0-6	0-5	1-6	0	1	17	-16

Bブロック

順位	チーム	瀬池	廣匠	布引	垂水	勝点	得点	失点	得失差
1	瀬池		3-2	6-1	6-0	6	15	3	12
2	廣匠	2-3		3-1	6-0	4	11	4	7
3	布引	1-5	1-3		8-0	2	10	9	1
4	垂水	0-6	0-6	0-8		0	0	20	-20

決勝戦

瀬池 5 (0-0) 0 高倉

瀬池は県大会へ出場

中学2・3年生 Aブロック

順位	チーム	高倉	附中	歌敷山	勝点	得点	失点	得失差
1	高倉		1-0	3-1	4	4	1	3
2	附中	0-1		4-0	2	4	1	3
3	歌敷山	1-3	0-4		0	1	7	-6

Bブロック

順位	チーム	上野	KSS	往吉	勝点	得点	失点	得失差
1	上野		5-0	5-0	6	15	0	15
2	KSS	0-5		6-1	4	11	6	5
3	往吉	0-5	1-6		2	6	11	-5
4	神影	0-5	0-5	0-5	0	0	15	-15

Cブロック

順位	チーム	神戸A	廣匠	垂水	須佐野	勝点	得点	失点	得失差
1	神戸A		3-1	2-0	9-0	6	14	1	13
2	廣匠	1-3		4-0	4-0	4	8	3	5
3	垂水	0-2	0-3		4-0	2	4	5	-1
4	須佐野	0-9	0-4	0-4		0	0	17	-17

決勝リーグ戦

1位 上野
2位 神戸A
3位 高倉
4位 神影

上野は県大会へ出場



中央球場より
10月11日(土) 神戸市総体準決勝(社会人) 14:00 2試合
10月12日(日) 神戸市総体 12:30 3位決定戦(社会人) 14:00 決勝戦
10月18日(土) 日本リーグ1部 ヤンマー 対 新日鉄 14:30
10月19日(日) 日本リーグ2部 田辺製薬 対 読売クラブ 13:00 大日電機 対 富士通 15:00
10月26日(日) 関西学生リーグ 大体大 対 同大 13:00 大経大 対 大商大 15:00
場内の駐車は有料です。
3時間まで 300円
3時間以上 500円

個人購読の案内
弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として20円切手20枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。ただし、郵便料金が改定された場合は、その時点で不足料金をいただきます。
〒651-13 神戸市北区有野台7丁目16-6 一北 四郎
電話 078(981)5867

神戸市社会人リーグ運営会議日程
11月20日(木) 12月19日(金)



10月号

発行所
神戸市サッカー協会
神戸市灘区上野通6丁目3-12
TEL (078) 861-3838
発行人 加藤正信
編集人 辻 豊
購読料 1部 20円
毎月1回10日発行

神戸市協会主催レクリーグ閉幕

神戸サッカーの夏の風物詩・レクリーグが7月19日から9月21日まで、ナイターの御崎サブグラウンドと中央球場を利用して楽しく行われた。

I、II、III部の予選リーグで順位を決め、各部の1、2位チームが9月21日中央球場で決勝を争った結果、I部はKFC(A)とKSSPTA(A)の両者、II部はKFC(B)、III部は舞子台クラブがそれぞれ優勝した。なお、今年はIV部の参加チームがなかった。

市リーグに加盟していないチームでも、あるいは個人でも自由に参加できるとあって、レクリーグは関係者の間に評判が高い。

学校を卒業し、スポーツクラブをもたない企業に就職した青少年たち、また仕事や体力的な都合で、年間を通して行われる社会人リーグに参加できない成人やOBチームの活動は、どこでどのように展開されているのだろうか。市協会ではこれらのサッカー愛好者を社会体育の面からバックアップし「体力づくり」や「仲間づくり」に寄与しようと、神戸市教育委員会の後援を得て、全国でもあまり例をみないユースリーグとOBリーグを開催し好評を博した。それは市協会が設立した47年の夏の夏のことである。

2年間続いた後、昨年からユースリーグとOBを統合してレクリエーションリーグと改称し、現在に至っている。選手の年齢によって、I、II、III、IVの4ブロックから成っている。

今年参加したチームは、スポーツマンらしく礼儀が正しく、ユニフォームもほとんどそろっていた。また、リーグ参加意識が高く試合前後の用具の準備や片付けを積極的にやり、リーグ運営をスムーズに進めることができた。ただ残念だったのは、けが人が多かったことである。準備運動を十分やって試合にのぞんではいい。

なお、主審を担当していただいた4級審判員の方々に感謝します。

I部(40歳以上)
KFC(A)とKSSPTA(A)の2チームが参加し、中央球場で激突。「現役時代のようにはいかんワイ」といながらも、楽しそうにボールを追っていた。両チーム優勝。

II部(30歳以上)
決勝は予想どおり、KFC(B)とKSSPTA(B)との対戦となった。両チームはそれぞれAチームのいわばジュニア。30歳代といえども体力にもまだまだすぐれた人が多く、迫力あるプレーが随所に見られた。

III部(19~29歳)
◎ガラクターズ
メンバーの大半が小学校の先生。終盤になってすごい闘志をみせて、カイザーズを下し念願の一勝をあげた。さわやかな印象を残した好チーム。

田中一監督の話
当初は全試合を通して1得点をねらっていましたが、それをあげてからは二けた得点さらには1勝へと目標がエスカレートし、初勝利を果たした時の感激は忘れられません。

◎ミドルセックスワングラーズ
ミドルセックスワングラーズからもじつたもので、「お山の大将」の意味になる。ヨントスを破る実力を持ちながら勝ち運に恵まれなかった。

浅野清和監督の話
楽しくサッカーがやれてうれしく思っています。来年は優勝をねらいます。このようなリーグを年に1度だけでなく、他の季節にも開催してもらえないでしょうか。グラウンド確保などの都合もあるとは思いますが。

◎ファミリークラブ
楽しく仲よく家庭的なムードで……がモットー。サッカーが好きでたまらないメンバーが集まっているだけにこれらが楽しみ。

吉田弘監督の話
レクリーグだと思ってあなどっていましたが、他チームの強さを膚で感じてびっくりしました。社会人リーグにはない親しみやすさがあり満足しています。

◎チイス
創立者の田口、池田、下田のイニシャルをとってT I Sという名前が生まれた。黄、青、白のブラジルと同じユニフォームでチイス旋風を巻き起こした。

池田龍雄監督の話
11人中10人までが近視で、ナイターの試合ではボールが見えず困りました。チームが負けた3試合のうち、2試合がナイターで行われました。これからがんばります。

◎神友FC
大阪ガスのチーム。フォワードには個人技のある選手が多いが、守りに弱さをみせてしまった。無敗で舞子台と同じ勝ち点ながら得失点差で涙をのんだ。

中辻好樹監督の話
主審はラフプレーをきびしくとってもらいたいです。芝のグラウンドで試合をする望みがかなえられませんでした。来年こそ中央球場でやりましょう。

◎舞子台クラブ
神戸高専のOBチーム。初参加ながらヨントスや神友を破って優勝。社会人リーグ2部の実力を持っている。

西川知延監督の話
優勝できてこんなにうれしいことはありません。卒業後、仕事の都合で離れたなれにっていた仲間とプレーでき、楽しい思い出となりました。

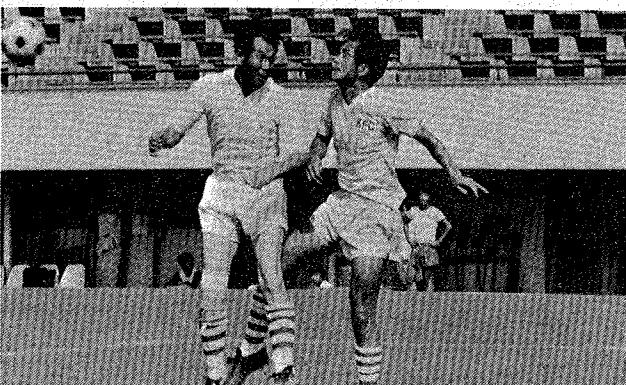
◎ヨントス
レクリーグの常連。予選リーグで1位となり、芝の球技場でできることが決まった瞬間、全員が飛び上がって喜んだ。

北野鉄生監督の話
来年は社会人リーグに加盟してみようと思っています。レクリーグのチームと社会人3部のチームとのオープン試合を企画していただきたい。

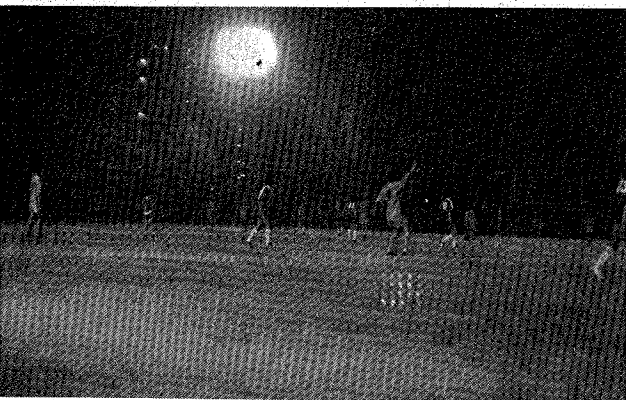
サッカーは楽しむことと見つけたたり



II部で優勝したKFC・B



オールドボーイもがんばりました



予選リーグはナイターで行われた(神友対ガラクターズ)御崎サブ

予選リーグ結果

II部

順位	チーム	KFC	KSS	市役所	ライオン	勝	負	引	分	得点	失点	得失差
1	KFC(B)		4-1	2-1	2-0	3	0	0	6	8	2	6
2	KSSPTA(B)	1-4		5-0	2-0	2	1	0	4	8	4	4
3	市役所	1-2	0-5		5-0	1	2	0	2	6	7	-1
4	神戸ライオン	0-2	0-2	0-5		0	3	0	0	0	9	-9

III部

順位	チー ム	ヨントス	舞 子 台	神 友	チ イ ス	ファミー	カイザーズ	ガラクターズ	勝	負	引	分	得点	失点	得失差	
1	ヨ ン ト ス	●	5-0	△	4-0	3-0	0-2	4-0	4	1	1	9	17	3	14	
2	舞 子 台	0-3	●	1-1	4-0	3-0	0-2	4-0	4	1	1	9	24	15	9	
3	神 友	△	△	●	3-3	3-2	△	4-3	8-0	4	1	1	9	24	15	9
4	チ イ ス	1-1	3-3	3-3	●	3-2	2-0	2-2	2-1	3	0	3	9	13	9	4
5	ファミー	0-4	2-3	2-3	●	●	7-2	6-0	8-3	3	3	0	6	25	15	10
6	M.S.カイザーズ	0-3	2-6	0-2	2-7	●	●	5-0	6-2	2	4	0	4	15	20	-5
7	ガラクターズ	0-4	0-8	1-2	3-8	2-6	5-1	●	1-5	1	4	1	3	8	22	-14

ルールの改正

競技規則の一部が9月1日より改正されました。日本協会審判委員会が発表した8月20日付けの内容を転載します。

去る6月にスコットランドで開催された国際評議会において、次のようなサッカー競技規則の改正が決定され、FIFAより各国協会へ通達されてきた。日本においては1975年9月1日より実施することとした。文中のページ数は、日本サッカー協会発行の「サッカー競技規則」1974年版のものである。

競技規則の改正

- 条 文
- 第2条 ボール（8ページ）空気圧の部分を変更
ボールの空気圧は0.6〜0.7気圧、すなわち海面の高さにおいて1平方インチ当り9.0〜10.5ポンド（1平方センチメートル当り600〜700グラム）とする。
- 第4条（省略）
- 第12条 反則と不法行為(J) (23ページ)
その競技者がいた地点を ボールがあった地点 に改める。
- 公式決定事項
第1条（省略）
- 第4条 競技者の用具(3) (11ページ)
競技規則第4条 を 本条 と改める。
リーグおよび競技会を その他の競技会 と改め行をかける。
- 第12条 反則と不法行為(8)の最後の文を削除し、新たに(9)をおく。(23ページ)
- (9) 競技規則第12条5(a)項にしたがって、他の競技者にプレーさせるためにボールを処理しようとしているゴールキーパーに対して、これを故意に妨害する競技者は、間接フリーキックによって罰せられる。
- 以下、現在の(9)〜(13)を (10)〜(14)とする。
- 第14条 ペナルティキック 4(C) (28ページ)
その競技者に警告を与えたとともに…の、るとともに を削除
- PK方式 5.(43ページ) 全文改正
5. (a) 次の(b)項の場合を除いて、延長戦のある場合はそれを含めて、試合終了時に競技場にいた競技者のみがこのキックに参加できる。主審の許可のあるなしにかかわらず、試合終了時に一時的に競技場を離れた競技者もこれに含まれる。
- (b) 競技会規定で定められた最大数の交代をまだ行っていないチームは、このキックの進行中に負傷してプレーが続行できなくなったゴールキーパーを、交代要員と交代させることができる。

解説

- 1) ボールの気圧
今までの空気圧では、試合開始時には1気圧であっても、終了時に計測するとボールが大きく圧が減少していた。また、選手からも硬すぎるという不満が出されていた。そこで多くの試合でテストした結果もとも使用し易く、しかも試合を通じて大きさや空気圧のほとんど変わらないものとして0.6〜0.7気圧が採用されることになった。数字の上では大巾な変更であるが、感じとしては若干柔らかくなったという程度である。
- 2) キーパーへのオブストラクションについて
ボールをもったゴールキーパーがプレーをしようとするのを妨害する行為は今までは非紳士的行為として警告されて間接フリーキックを与えていたものが、オブストラクションとして間接フリーキックで罰せられることになった。
- この妨害とは、単にキーパーのそばに立っているだけではこれに当たらず、積極的にキーパーにつきまとう行為を指している。

追記

- 1) ボディ・ホールディングについて
1974年度のルール改正で、ホールディングの項から「手や腕を使って」という言葉がはずされ、これによって身体や足を使って相手をおさえる行為もホールディングとして扱われることになった。特に今までは、身体を使って相手をおさえることは、オブストラクションとして扱われていたのが、今後はホールディングをして直接フリーキックで罰せられることになる。
- ボディ・ホールディングとオブストラクションとは、身体を使って積極的に相手を押えているのか、ただ単に相手のコースに身体を入れて進路を妨害しているのかで区別される。
- この解釈の変更については、チームや選手に周知徹底させることを図った上で、随時適用していく方針である。
- 2) 1974年版「サッカー競技規則」の誤植について
日本サッカー協会発行の「サッカー競技規則」以下の誤植があるので訂正願いたい。
- 5ページ 条文5行目 100ヤード→110ヤード
14ページ 公式決定事項 競技者→競技場

兵庫県高校選抜チーム（国体出場）

監督 佃 幹夫 六甲高教諭	HB 6 菊岡正勝 市西宮 3年
GK 1 田坂欽也 西宮東 3年	7 内田健次 県尼崎 3
22 鈴木龍郎 尼崎西 3	8 岡本 将 県芦屋 3
FB 2 太田秀貴 武庫工 3	14 林 啓太 神戸 2
3 安岡 孝 尼崎西 3	FW 9 山崎正純 県尼崎 3
4 横山 馨 県尼崎 3	10 桜木浩二 神戸 2
5 祐原通延 県芦屋 3	11 上野雄二 社 3
13 竹内 章 関学 3	12 藤原延明 関学 3

以上15名

審判員の資質向上で

兵庫サッカーのレベルアップを

一 北 四 郎



兵庫県内には協会登録チームが600を越えました。そして、年間の公式戦の数は1チーム10試合平均としても、3,000以上になります。これだけ多くの試合を消化するのに、県内には1級5名、2級10名、3級50名の公認審判員がいるにすぎません。一昨までは一部の熱心な審判員の献身的な努力により消化されてきましたが、試合数の増大で不可能な状態となり、昨年からは一チーム3名の有資格審判員を必ず登録する規則を設け、200名以上の4級審判員が生まれました。しかし、これらの方々の中には公正で円滑な運営をするにはまだまだ未熟な人も多く、一層の研究が望まれます。

少年団サッカーから大学、社会人にいたるまで、それぞれの試合で選手たちは真剣にプレーしています。サッカー王国兵庫の再現のためには、いつでもフェアなそして力強いプレーが展開されることが大切です。その意味においても、審判のはたす役割は重要です。審判員は競技規則を正しく理解し、起りうるあらゆる場面で正しい判断と厳正な判定を下さなければなりません。

一方、協会側としてもこのような審判員のサッカーに対する貢献と奉仕に対して、精神的にも物質的にも十分むくいることのできる施策を講ずる必要があります。そこで、次のことを提案したいと思います。

1. 1年間に多数の試合の審判を担当した審判員を表彰する。
2. 審判の技術向上のための各級審判員の研修会の開催と、年1回受講参加を義務づける。
3. 公式戦の審判員指導のために指導員を配置し、適切な指導、助言を与える。
4. 審判割り当ての公平をはかり、割り当てを円滑に行うために試合日程を早く決定するとともに、各審判員の方から審判可能なスケジュール（月間予定）をあらかじめ審判割り当て係へ提出する。
5. 審判員の待遇を改善する。現在、1試合の手当では県内の試合で1,000円以下となっています。1試合の審判を担当するために拘束される時間は、約4時間になります。もし、仕事を休んで審判に来る人が失う利益を償うにたる審判料は、現在の2倍でもおかしくありません。

以上いろいろ書いてみましたが、審判員のみならず、お互いに研究しあって審判技術の向上に努力されるよう願ってやみません。

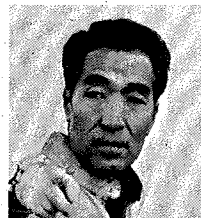
神戸市総合体育大会組み合わせ決まる（社会人）

1回戦 (30分)	2回戦 (35分)	準決勝 (40分)	決勝・戦 3位決定戦 (40分)
須磨区 (須磨クラブ)	10/10 09:20		
兵庫区 (三菱電機)	10/09 09:00 磯上		
北 区 (兵庫教員)		10/11 14:00 中央	
東灘区 (川崎製鉄)	10/10 10:30 磯上		
長田区 (川鉄建材)		10/12 12:30 中央	10/12 14:00 中央
神戶市 (神戸スポーツマン)	10/10 10:40 磯上		
灘 区 (神戸ライオン)		10/11 15:30 中央	
生田区 (神戸FCA)	10/10 12:50 磯上		
垂水区 (星陵クラブ)			

〈区予選結果〉

東灘区 ナグロマイティ 0 グリーンエール 0 ビートルズ 0 川鉄建材 1	兵庫区 ホワイトソックス 2 神 港 クラブ 5 三 菱 電 機 3 川 西 倉 庫 1 三 菱 重 工 (B) 3 会下山クラブ 2	北 区 兵 庫 教 員 2 水 道 局 2 長田区 神戸スポーツマン 2 双和クラブ 2 須磨区 (参加1チーム) 須磨クラブ 2 垂水区 アイベックス 6 川 重 発 動 機 1 川 崎 重 工 3 川 崎 重 工 3
東灘区 神戸製鋼 0 草 合 クラブ 1 川 崎 製 鉄 1	兵庫区 神戸ライオン 7 阪 神 F C 0 灘 F C 2	北 区 神戸ライオン 3 神戸FCA 2 神戸FCA 1 神戸市役所 0 川 崎 重 工 6

清水の少年チームが本夏ヨーロッパに遠征して全試合大勝した。この世界一の少年たちが、はたして将来とも世界一の大人の選手になれるか？もし、途中で外国選手に追い越されるとすれば、それはなぜか。



枚方FC 近江 達氏

手もみな同じように見えて区別がつかない。個々の選手は頭を使っているようだが、やることはすでに決まっています。コーチの指令をいかに忠実に実行するかといったプレーなので、意外性に乏しく自由奔放な融通のきく独創的なアイデアは見られない。

そのようなふん囲気の中でゲームをやるものだから、激しいあたり、敏しょう性、スピードといった要素が勝敗を決定することになる。したがって、今後も日本中のほとんどのチームがこれらの点の強化に熱中することになるが、そこには一考を要する重大な問題が隠されているように思われる。

日本の大人が外国チームと試合をする、ボールが持たないで体力と気力が浪費され疲れてしまう。そこで、体力と気力の向上に努めるが、体力と気力だけで技術差をカバーしようとしても不可能に近い。

少年時代にパワフルなプレーに徹することは勝つための早道に違いないが、大人のサッカーを小さくしたようなゲームを続けているかぎり、結局、今まで大

人が歩んできたみじめな過程をたどることにはなりはしないか。

少年時代こそ、日本の大人が外国のプレーヤーより劣っている技術、自主性、独創性などを辛抱強く育てていくべきであろう。「外国では子供の頃から長い時間をかけてボールをもつ技術を身につけ、それを基盤にしてチームプレーやパスのサッカーへと進んでいく。これに対して日本では、ボールテクニックの修得をおろそかにして、はじめからいきなりチームプレーやパスワークのサッカーを教え込もうとする。そこに、子供が大きく伸びない一因があると思う」と、いいたいのである。

スポーツを取りまく社会環境とパワーを除けば、日本人が外国人に劣る要素はなにもない。優秀な天分を持つ少年はたくさんいるはずだ。コーチは単にチームをまとめるだけにとらわれず、何よりもボールの持てる選手を育てていただきたい。チーム作りにしても、そうした個人技のある選手による高い創造性の連係によって、チームプレーを創み立てることを目標にすべきだと思う。

この大会で残念だったのは、反則やラフプレーが多かったことである。ほとんど反則を取らない審判もいた。何回か痛めつけられると、テクニシャンはデリケートな仕事ができなくなり戦力は半減する。そういう重要な問題を審判はもっと認識してもらいたい。

サッカー選手であるからには、ルールを守り反則やラフプレーをしないように、少年時代にきびしくしつけることが必要である。悪貨は良貨を駆逐する。反則やラフプレーの放任はそれを流行させ、ボールを持つ技術の普及・向上を妨げ、さらには日本サッカーの進歩をも止めてしまうかもしれない。ジュニアフェスティバル参加者が模範となってフェアプレーの精神を守り、悪質なプレーをなくしていただきたいものだ。

その時にはじめて、日本サッカーが明るいものになっていくと信ずる次第である。



古風豊かな建物



ミュンヘンの街頭に繰り出す西ドイツ応援団

「ミュンヘン」——ワールドカップ観戦記(終)

一 北 四 郎

7月3日、ボン空港からドイツ国内航空でミュンヘンへ移動しました。

バイエルン州の主都であるミュンヘンは、FCバイエルンの本拠地として、また72年オリンピックが開催されたことで、みなさんご存知のことと思います。いろいろな名前では呼ばれてきましたが、ミュンヘンは「元氣な町」という意味のミュンヘンで残りました。市が誕生800年と100万人目の住民誕生を祝った時は、「100万人の村」と呼ばれ、そして「心の都」と呼ばれたこともあります。たった一つ、1504年以来、変わらない名前があります。それは「パバリアの主都」です。

9月の下旬から始まるビール祭、オクトーパフェストは、ビールの町としてのミュンヘンを一層有名にしています。しかし、ビールばかりでなくミュンヘンに

はドイツ博物館をふくむ24の美術館、博物館、数々の劇場があるなど美術と音楽の都としても知られています。

旧市庁舎には大きな時計があって、夜9時になると大時計の前面のとびらが開き、人形が出てきて音楽を演奏します。この市庁舎の近くに西ドイツ最大のビヤホールがあります。一般の人が利用できる1階だけで1,000人を収容する広さをもっており、2階はレストラン、3階は会員制のホールとなっています。ヒットラーがナチスドイツの旗上げの演説をしたところでもあります。

大きなジョッキでビールをくみかわし、多くのワールドカップ旅行者と親しくなりました。ところが、このホールで決勝戦の前日7月6日の夕方に出かけていった時は、ドイツ人やオランダからやって

旧市庁舎の時計台

きたサッカーファンがつかけて身動きできないありさまでした。ドイツ人のグループがあすの決勝はドイツのものだと誇示するかのように「ドイツチェラントチャチャチャ」と氣勢をあげると、オランダの方も負けてはおれないと「オランダ ラララ」の大合唱がわきあがり、それがいつまでも続くのでした。ビヤホールが割ればかりのすごさです。

オランダの応援行進は町へも繰り広げられていきます。朝6時に目をさました時もまだ「オランダ ラララ」の応援が聞こえてきたから、彼らは夜を徹してミュンヘンの町を歩きまわったのでしょうか。いつもなら静かなたたずまいをみせるミュンヘンも、ワールドカップ一色にそまり、この日はばかりのようでした。

いよいよ決勝戦。4時からの開始だというのに、正午すぎには地下鉄の駅はあふれんばかりの人、人、人。

まるで夢のような90分間が過ぎました。オランダ優勢の予想を破って優勝したドイツ人の喜びを、どう表現すればいいのでしょうか。前夜を上まわるさざは、いつまでもミュンヘンの町にこだましていました。彼らの夜を徹してビールを飲み、サッカーを語るエネルギーこそ勝利を導く原動力ではないかとつくづく感じました。

今回でワールドカップ観戦記を終わります。ワールドカップの魅力、すばらしさはとても文章で表すことができません。ぜひ一度、あなたの目で直接ご覧になれることをお勧めします。アルゼンチン大会まで3年間ありますから……。

長い間、ご愛読ありがとうございました。